

# 吉塚9

—吉塚遺跡群第11次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書

第966集

2007

福岡市教育委員会

# 吉塚 9

—吉塚遺跡群第11次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書

第966集



遺跡番号 YSZ-11

調査番号 0545

2007

福岡市教育委員会



## 序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と歴史が残されています。その中でも博多区は大陸との交流の中で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくことは行政に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い記録の保存につとめています。

今回報告する吉塚遺跡群発掘調査報告書は共同住宅建設に伴う調査成果についての記録です。この調査では弥生から古墳時代と中世の集落跡を調査し、貴重な遺構を確認いたしました。

本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また、研究資料として御活用頂ければ幸いに存じます。最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々の御理解と御協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第であります。

2007年3月30日

福岡市教育委員会  
教育長 植木とみ子

## 例　　言

□本報告書は博多区堅粕5丁目の共同住宅建設に伴って2005年10月7日から12月9日にかけて発掘調査を行った吉塚遺跡群第11次調査の調査報告書である。

□本書に収録した発掘調査は福岡市教育委員会の屋山洋が担当した。

□遺構実測図の作成と写真撮影は屋山が、周辺測量は藤野雅基と岩本三重子が、遺物実測は平川敬治と屋山が行った。

□本書で用いた方位は磁北で真北より6°21'西偏する。

□遺構遺物番号はそれぞれ通し番号とした。

□本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市立埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。

□貿易陶磁の分類は太宰府条坊跡XV-陶磁器分類編一(2000年) 太宰府市教育委員会を参照した。

遺跡調査番号	0545	遺跡略号	YSZ-11	分布地図番号	博多駅 36
調査地地番	福岡市博多区堅粕5丁目427-2、425-5他				
開発面積	277m <sup>2</sup>	調査面積	277m <sup>2</sup>	調査原因	共同住宅建設
調査期間	2005年10月7日～12月9日			調査担当者	屋山 洋

## 本文目次

Iはじめに	1	2. 古墳時代前半の遺構と遺物	4
1 調査に至る経過	1	3. 古墳時代後半の遺構と遺物	10
2 調査の組織	1	4. 古代末から中世の遺構と遺物	10
II 調査の記録	1	5. 近世から近代の遺構と遺物	14
1 調査の概要	1	6. その他の遺物	14
2 遺構と遺物	1	3 小結	15
1. 弥生時代から古墳初頭の遺構と遺物	…1	表1. 土器観察表	18
		表2. 出土玉類一覧	裏見返し

## 挿図目次

第1図 古墳遺跡群の位置と周辺の遺跡(1/30,000)	2
第2図 吉塚遺跡内での調査地点の位置 (1/8,000)	2
第3図 調査区周辺図 (1/400)	3
第4図 調査範囲図 (1/300)	3
第5図 調査区土層図 (1/40)	4
第6図 調査区全体図 (1/80)	折込み
第7図 弥生時代の遺構と遺物 (1/40・1/4)	5
第8図 積石式住居実測図 (1/60・1/40)	6
第9図 古墳時代遺構実測図1 (1/40)	7
第10図 古墳時代遺構実測図2 (1/40)	8
第11図 古墳時代遺構出土遺物実測図 (1/4)	9
第12図 SK675出土遺物実測図 (1/4)	10
第13図 井戸実測図 (1/60・SE011は1/40)	11
第14図 井戸出土遺物実測図(1/4)	12
第15図 古代から中世遺構・遺物実測図 (1/40・1/4)	13
第16図 中世から近代遺構・遺物実測図 (1/40・1/4)	14
第17図 弥生時代遺物実測図 (1/4)	15
第18図 古墳時代遺物実測図 (1/4)	16
第19図 中世及びその他の遺物実測図 (1/4)	17

## 図版目次

図版1	1. I区2面 全景 (南東から)…21	2. II区1面 全景 (北西から)…21
図版2	1. II区2面 全景 (北西から)…22	2. 調査区土層…22
	3. SK 066 (北東から)…22	
図版3	1. SK 271 (北東から)…23	2. SC 067 (東から)…23
	3. SC 018 (南東から)…23	4. SE 707 (北西から)…23
	5. SE 012 (北東から)…23	6. SE 113 (南東から)…23
図版4	1. SD 027 (北東から)…24	2. SK 753 (北から)…24
	3. SK 123 (北西から)…24	4. SK 685 (西から)…24
	5. SK 210 (南から)…24	6. SK 177 (北東から)…24

## I. はじめに

### 1 調査に至る経過

2005年6月2日付けで有限会社T企画の代表取締役田中繁夫氏から福岡市教育委員会埋蔵文化財課宛に福岡市博多区堅粕5丁目427-2、425-5他の共同住宅建築に伴う埋蔵文化財事前調査申請書（17-2-193）が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財である吉塚遺跡群内に位置し隣接地で1次調査が行われているため、遺構の存在は確実であった。そのため6月28日に重機を使用して試掘調査を行ったところ、現地表面から1.4mの砂丘基盤層上面で遺構を確認した。その結果をもって建築に先立ち発掘調査が必要であり、本調査を行い記録保存を測ることで両者の協議が成立した。以上の協議をうけて2005年10月7日から12月9日までの期間で調査を行った。

### 2 調査の組織 2005年調査時

調査主体	教育委員会文化財部埋蔵文化財課第1係	2006年整理時	教育委員会文化財部埋蔵文化財1課調査係
	埋蔵文化財課課長 山口謙治		埋蔵文化財1課課長 山口謙治
	埋蔵文化財課第1係長 池崎譲二		調査係長 山崎健雄
調査庶務	鈴木由喜	調査庶務	鈴木由喜
調査担当	埋蔵文化財課第1係 尾山洋	整理調査担当	尾山洋
作業員	岩本三重子 岩崎良隆 越智信孝 岡部安正 末野孝子 堀正子 中島道夫 中村サツエ		
	藤野幾志 波賀久雄 藤野雅基		
整理作業	大石加代子 熊谷幸江 中村麻衣子 藤野洋子		

## II. 調査の記録

### 1 調査の概要

本調査は共同住宅建設に伴う調査である。建物基礎部分277m<sup>2</sup>の調査を行った。調査は試掘調査の結果を基として、現地表面から140cm下の砂丘面まで掘り下げてから行うこととした。廃土置き場の都合から調査区を東西に分けて打って返しをする必要があり西側をI区、東側をII区とした。まず西側から調査を開始し10月11日と12日に10tの重機で西側の表土を140cmまで掘り下げて調査を開始した。I区の調査は10月31日に終了したが、I区の調査区周囲の土層観察により古代～中世と思われる遺構が標高3.3m（地表下60cm）から掘り込まれており、そのほとんどが砂丘面にまで達していないことが判明した（第5図）。土層図の21、27は古代末から中世の掘り込み、23は古墳時代、32層は弥生時代～古墳時代の掘り込みである。そのためII区では調査を地表下60cmと110cmの2面の調査を行ふこととし、11月1日と2日に重機で地表下60cmまで掘り下げ1面目の調査を開始した。その後1面の調査を11月17日に終了し18～19日に重機で砂丘面まで掘り下げ、2面目の調査を開始した。II区を2面調査したことにより調査面積が増えたため、終了予定の11月30日までに終わらせることができず、結局12月9日に埋め戻して終了した。

### 2 遺構と遺物

#### 1. 弥生時代から古墳時代初頭の遺構と遺物

##### 1) 土坑

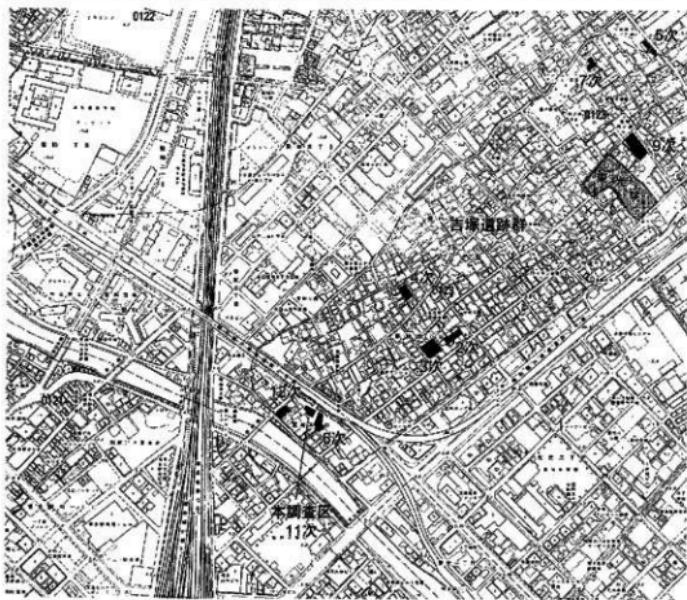
SK063（第7図） I区南東端に位置しSD027に切られる。平面は梢円形を呈し長径約1m、短径70cm、深さ43cmを測る。弥生時代中期後半から後期にかけての甕底部が出土した。後湖前半か。

SK066（第7図） I区南東側に位置しSC067に切られる。長径2.5m以上、短径は1.9m、深さ55cmを測る。西側半分にテラスがつく。底面東側が1段低いのは掘りすぎである。弥生時代中期から後期にかけての土器が出土したが遺存状態が悪く図化できない。

SK127（第7図） II区1面北東端に位置する。遺構周辺は砂丘面がやや高い。東西径92cm、深さ44cmを測る。弥生時代の器台片の他、古墳時代初頭の可能性がある土器小片が出土した。

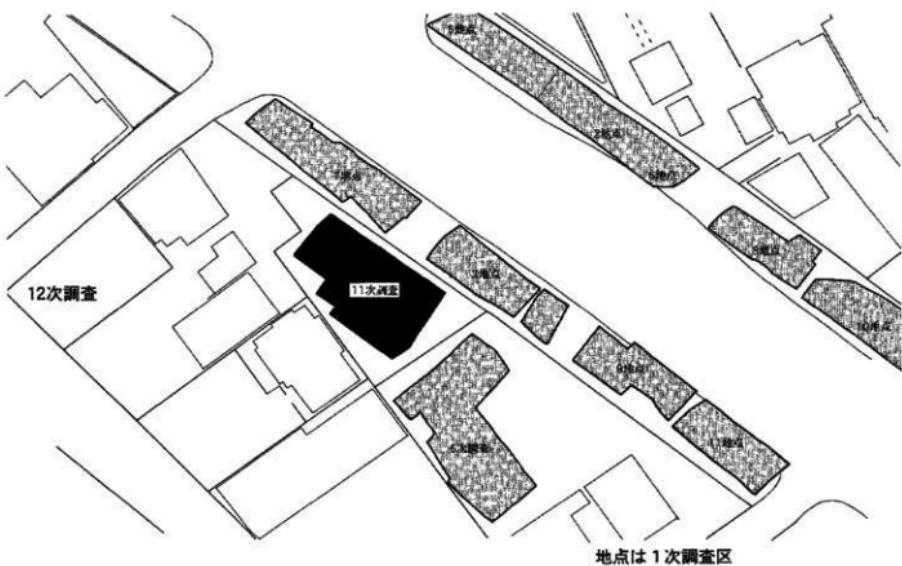


第1図 吉塚遺跡群の位置と周辺の遺跡 (1/30,000)

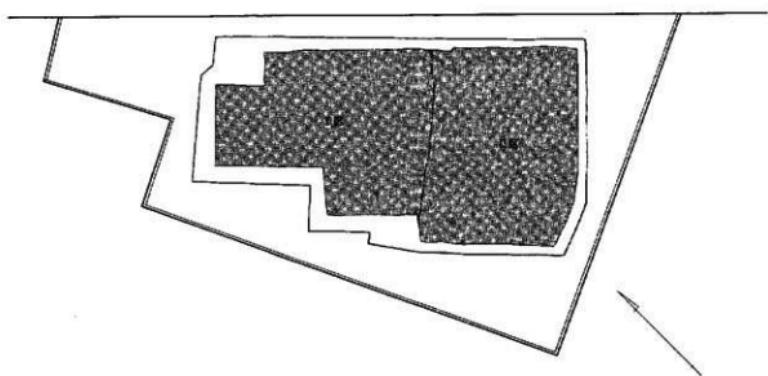


第2図 吉塚遺跡内での調査地点の位置 (1/8,000)

8・10次調査は東光院内の調査



第3図 調査区周辺図 (1/400)



第4図 調査範囲図 (1/300)

SK271 (第7図) I・II区境界に位置しSD027とSK268に切られる。東西に長い不整梢円形を呈し現状で長径2.5m、幅1.6m、深さ45cmを測る。出土遺物 (第7図001~007)、弥生時代中期後半の土器が出土した。001は袋状口縁壺で、002は壺肩部である。003から007は壺片である。

SK682 (第7図) II区2面南端部に位置しSE707に切られる。平面円形を呈し径1m、深さ15cmを測る。覆土中から弥生時代後期の土器片が出土した。

SK751 (第7図) II区2面でI区との境に位置する。北側はI区の調査時に検出できなかったため不明で、南端はSK123に切られる。現状で径1.7m、深さ35cmを測る。弥生中期後半から後期の壺片が纏まっている。6世紀の須恵器小片が1点出土しているが混じり込みと考えられる。

SK769 (第7図) II区2面でI区との境に位置する。平面は梢円形を呈し長径135cm、幅約100cm、深さ30cmを測る。弥生時代中期後半から後期前半の壺底部の他中期中頃の壺口縁などが出土した。

## 2) 穫式住居

SC018 (第8図) I区南西端部に位置する。平面は東西に長い長方形を呈す。東側は切合が激しく東壁は確認できなかった。長軸は推定6m、短軸は5.1m、検出面からの深さは20cmと浅い。床面は削られ掘方だけ遺存している。主柱穴やベット状遺構などは検出できなかった。弥生時代終末から古墳時代の土師器の他弥生時代中期の壺底部などが出土した。古墳時代初頃か。出土遺物 (第11図008~026)。008~015は壺口縁である。016は壺胴部。017~018は高坏口縁、019~021は器台、022は土器鉢、023は壺、024は手捏ね土器、025は飯蛸壺、026は土錠である。

SC067 (第8図) I区北端に位置する。東西方向に長い梢円形を呈し直径4.4m、短径3.4cm、深さ10cmを測る。主柱穴は不明である。弥生時代中~後期の壺口縁や丹塗り磨研土器片の他に古墳時代土師器片や中世土師器片が出土したが、紛れ込みか。弥生時代中~後期と考えられる。

## 3) 屋内貯蔵穴 SC018の底面で屋内貯蔵穴と思われる掘り込みを2基確認した。

SK030 (第8図) 北側角で検出した。長径118cm、短径84cm、深さ18cmを測る。古墳時代前期の土師器壺片と弥生時代後期壺片が出土した。

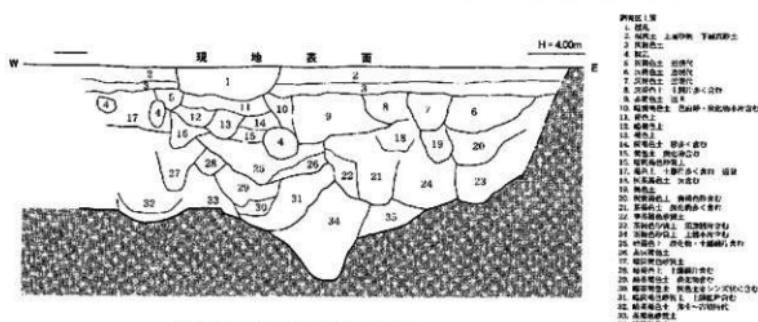
SK047 (第8図) 西辺中央部で検出した。住居の壁が外側に張り出す。切り合がが多く平面形は不明である。遺物は出土していない。

## 2. 古墳時代前半の遺構と遺物

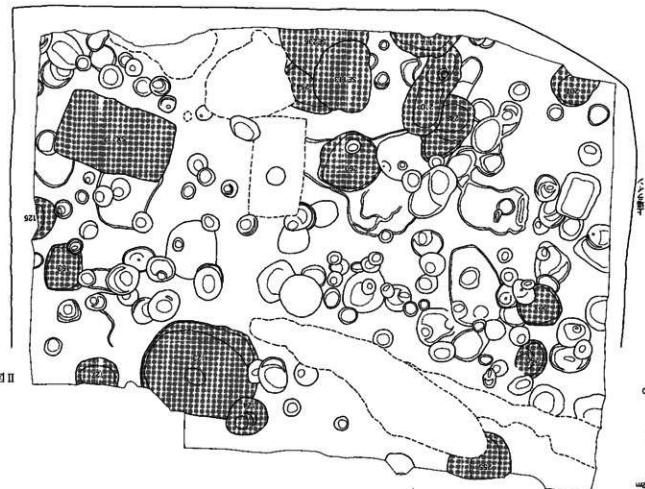
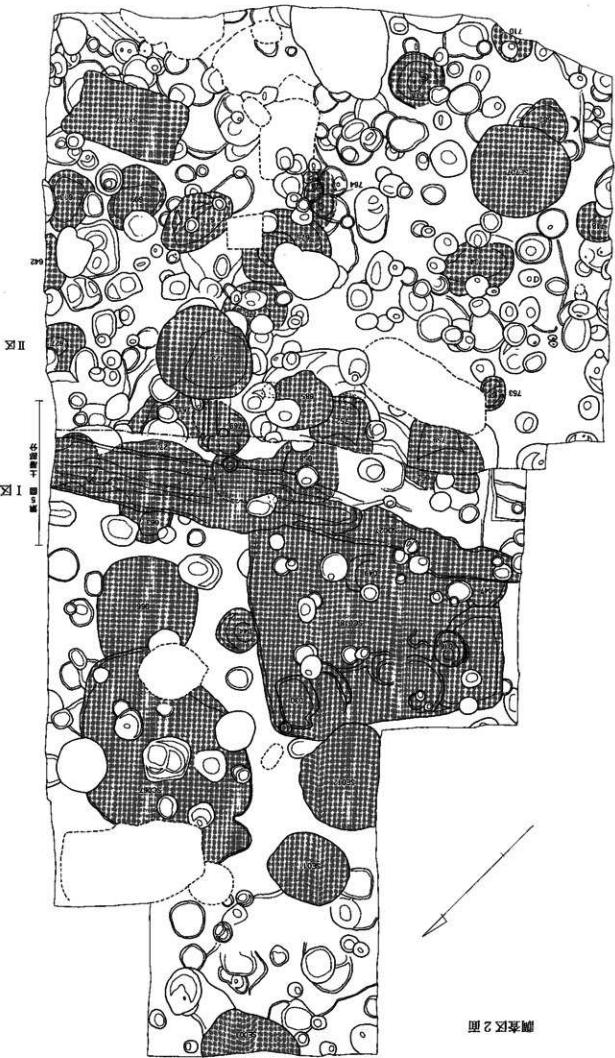
### 1) 土坑

SK016 (第9図) I区南西部に位置しSC018を切る。平面形は円形、断面逆台形を呈す。覆土中から土師器壺や高坏の他に弥生時代中期の丹塗り磨研土器片が出土した。

SK044 (第9図) I区中央南東よりに位置する。SC018に切られる。断面円形を呈し北東側にテラスがつく。深さ16cmを測る。古墳時代上師器壺口縁と弥生時代後期前半の壺底部が出土した。



第5図 調査区土層図 (1/40)

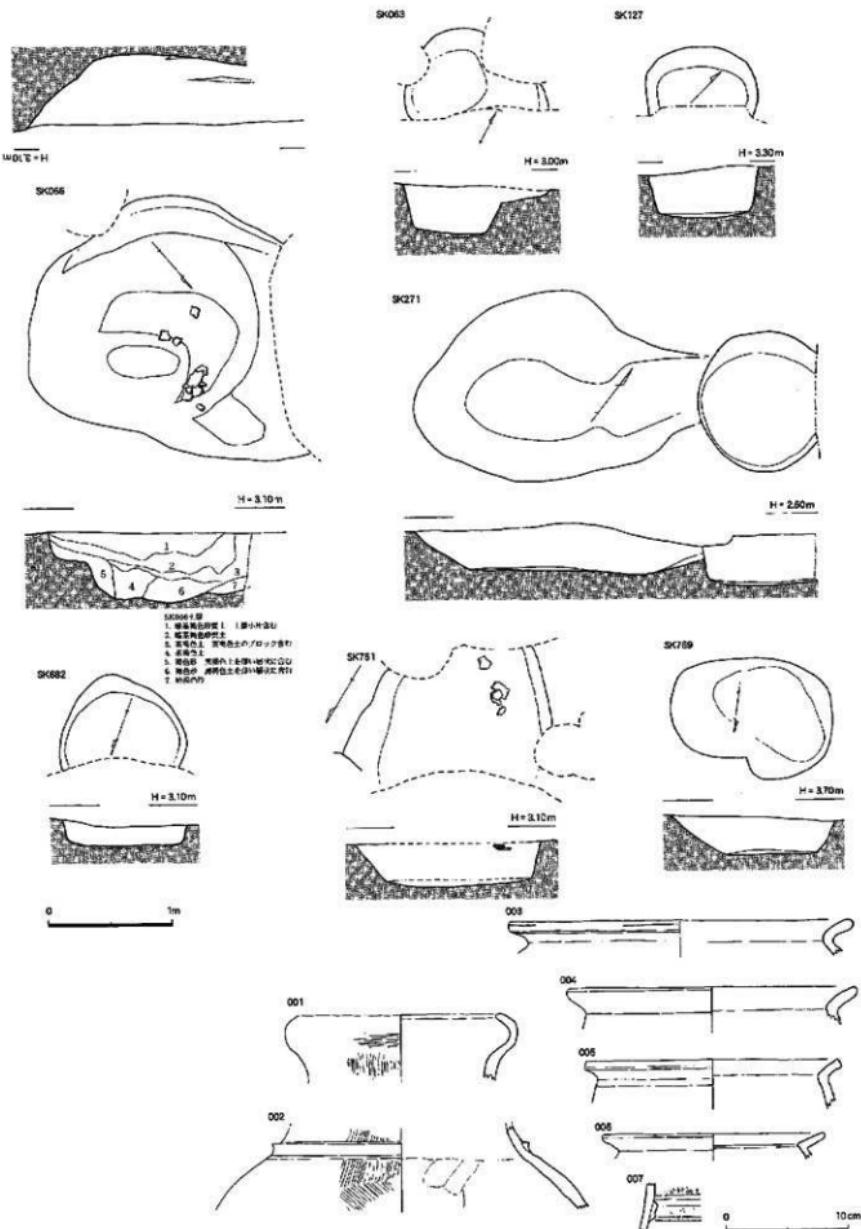


調査区2面

調査区1面

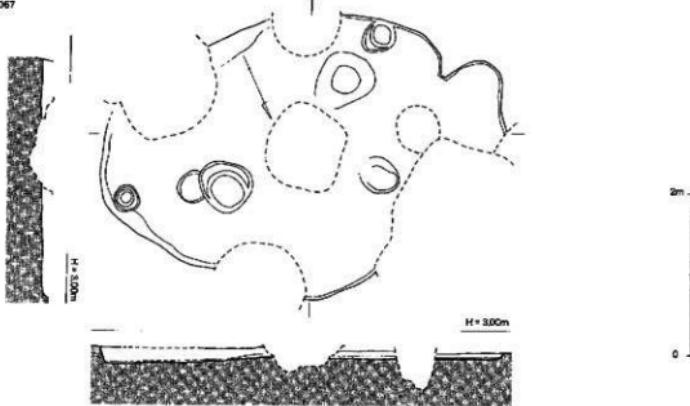
調査区2面

調査区1面

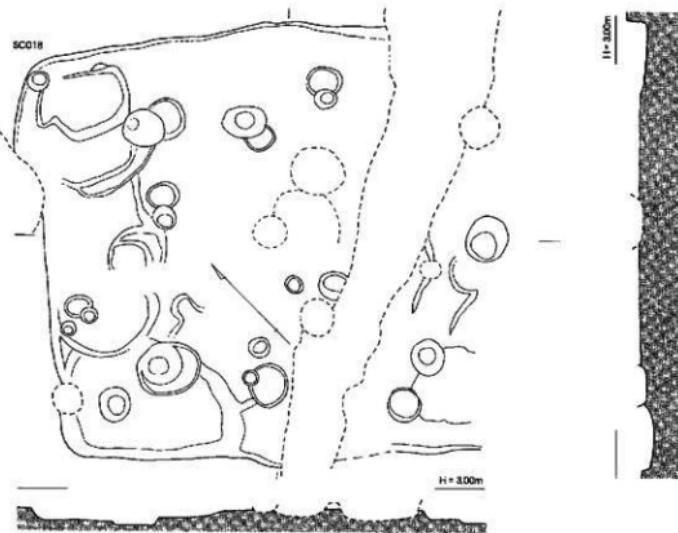


第7図 弥生時代の遺構と遺物 (1/40・1/4)

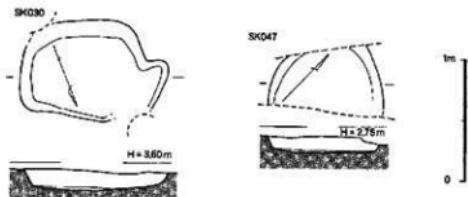
SC067



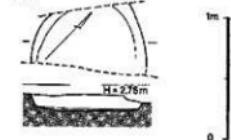
SC018



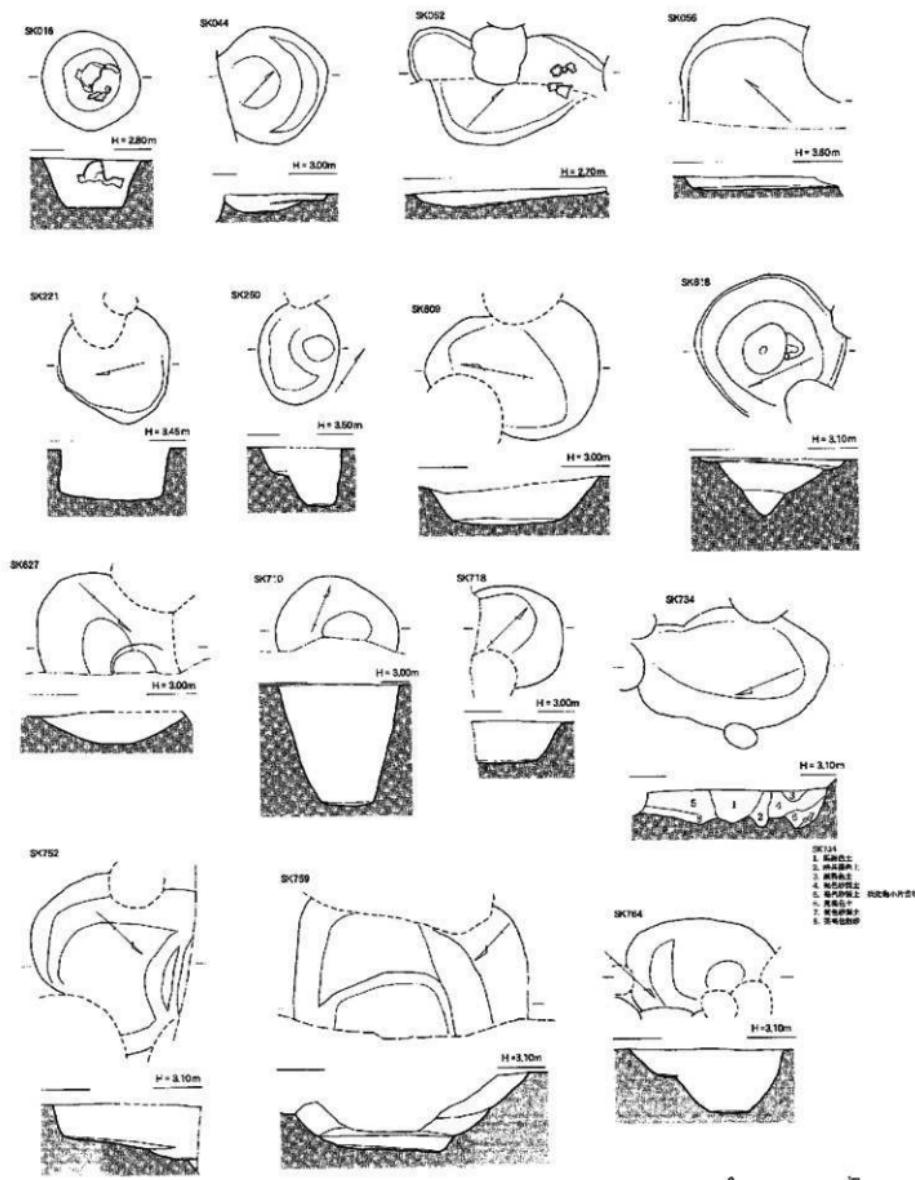
SK030



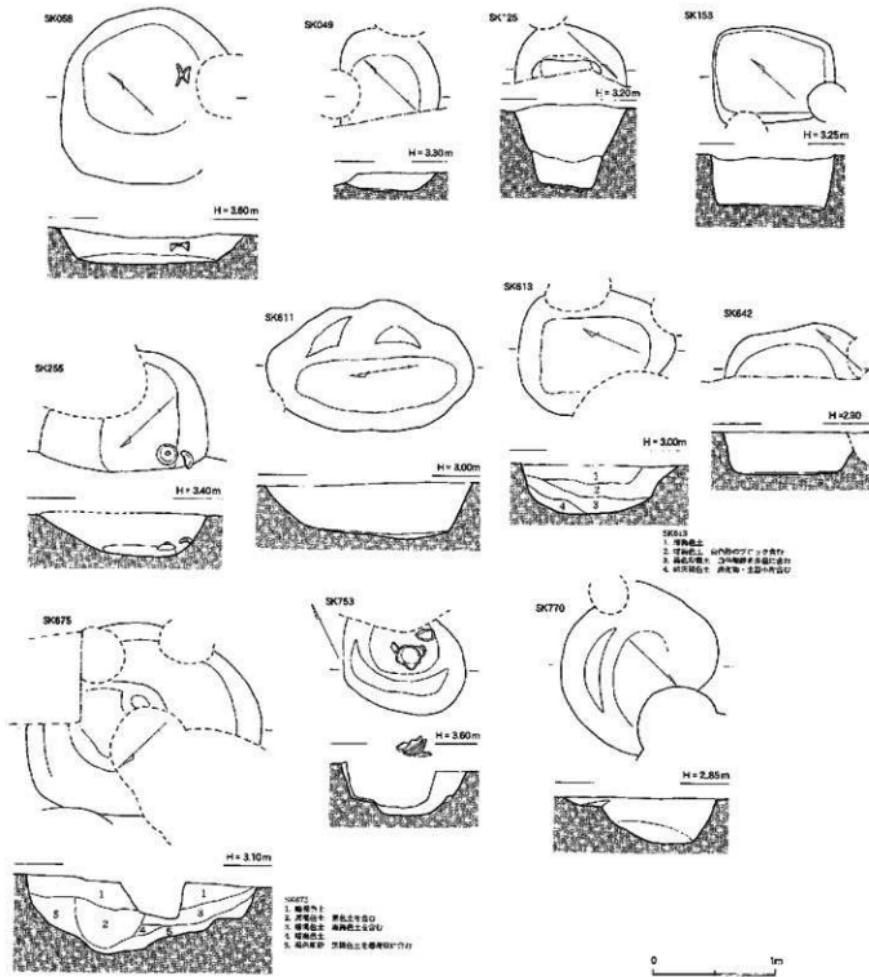
SK047



第8図 積穴式住居実測図(1/60・1/40)



第9図 古墳時代遺構実測図1 (1/40)



第10図 古墳時代遺構実測図 2 (1/40)

SK052(第9図) I区南端のSC018内に位置する。II区にまたがっており打って返し後の遺構検出の結果平面形がずれてしまった。深さ14cmを測る。土師器小片が出土した。

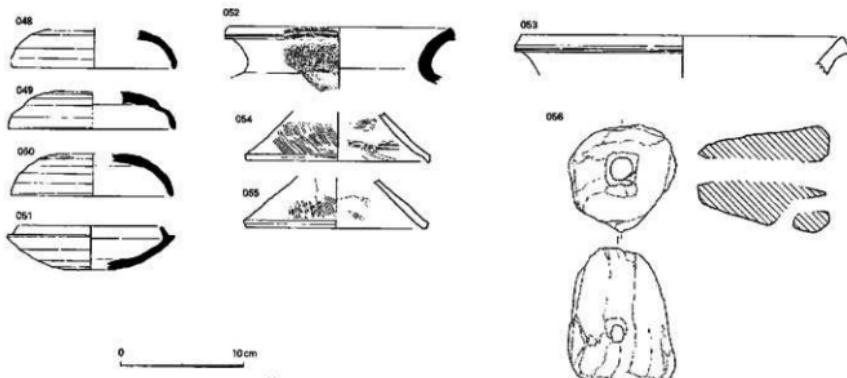
SK056（第9図）I・II区境界中央に位置しSE027に切られる。切り合ひが激しく平面形ははっきりしないが、四九方形に近いと思われ、深さ10cmを測る。古墳時代前期の土師器鉢が出土した。

SK221(第9図) II区南東端に位置しSP220に切られる。平面椭円形で長径1m、深さ45cmを測る。0.27~0.29の古墳前期土器のほかに発生時代後期土器や1点須恵器小片を含む。

SK250（第9図）Ⅱ区西端部に位置する。平面積円形を呈し直径約80cm、深さ48cmを測る。西側にテラスがつく。多数の土師器片の他、6～7世紀の須恵器の壺と甕片、釦、黒曜石片などが出土した。



第11図 古墳時代遺構出土造物実測図 (1/4)



第12図 SK675出土遺物実測図 (1/4)

SK609 (第9図) II区東側に位置する。長径1.4m、深さ40cmを測る。壺、坏などの須恵器片や小型丸底壺片の他に銅鏡3個体分と土鍤が出土した。

SK618 (第9図) II区南東部に位置する。弥生中期から後期の壺底部の他古墳前期の変口縁が出土。

SK627 (第9図) II区北端に位置する。深さ約30cmを測る。弥生末～古墳時代の上器片が出土した。

SK710 (第9図) II区南端部に位置する。古墳時代前期の壺口縁と器台片が出土した。

SK718 (第9図) II区南端部に位置する。径90cm、深さ35cmを測る。土師壺片が出土した。

SK734 (第9図) II区南側に位置する。平面橢円形で長径1.6m、短径1m、深さ42cmを測る。

SK752 (第9図) II区北側中央に位置する。I区では検出できなかった。深さ50cmを測る。古墳時代前期の壺片が多く出土したほか、弥生土器や壺片など、須恵器小片も1点出土した。

SK759 (第9図) II区北端に位置する。径1.9m、深さ63cmを測る。土師器片が出土した。

SK764 (第9図) II区中央南寄りに位置する。深さ50cmを測る。古墳時代前期壺片が多く出土した。

### 3. 古墳時代後半の遺構と遺物

#### 1) 土坑

SK049 (第10図) I区南西側SC018内に位置し径82cm、深さ15cmを測る。土師器片が出土した。

SK058 (第10図) I区南端に位置する。深さ30cmを測る。須恵器坏蓋、土鍤が出土した。6世紀。

SK125 (第10図) II区1面南端に位置し深さ72cmを測る。須恵器坏蓋などが出土した。6～7世紀。

SK153 (第10図) II区1面南端に位置する。深さ45cmを測る。須恵器の坏蓋や壺のほか瓶や上師壺など古墳時代の土器片が多く出土すると共に袋状口縁など弥生時代の土器片も少量出土した。

SK255 (第10図) II区1面北西端に位置する。径1.35m、深さ36cmを測る。須恵器坏蓋、坏、大甕や土師器高杯、上師壺、瓶など6世紀を中心とする土器が出土した。1部中世の混じり込み有り。

SK611 (第10図) II区中央に位置する。6世紀代の須恵器の他銅壺4個体分や土師壺が出土した。

SK613 (第10図) II区2面東端に位置する。須恵器の壺と瓶や土師器片が多数出土した。

SK642 (第10図) II区2面東端に位置する。須恵器片が出土した。

SK675 (第10図) II区2面中央南よりに位置する。長径1.9m、深さ65cmを測る。6世紀末の須恵器片と坏蓋が出土した他、弥生時代中～後期の土器も多く出土した。

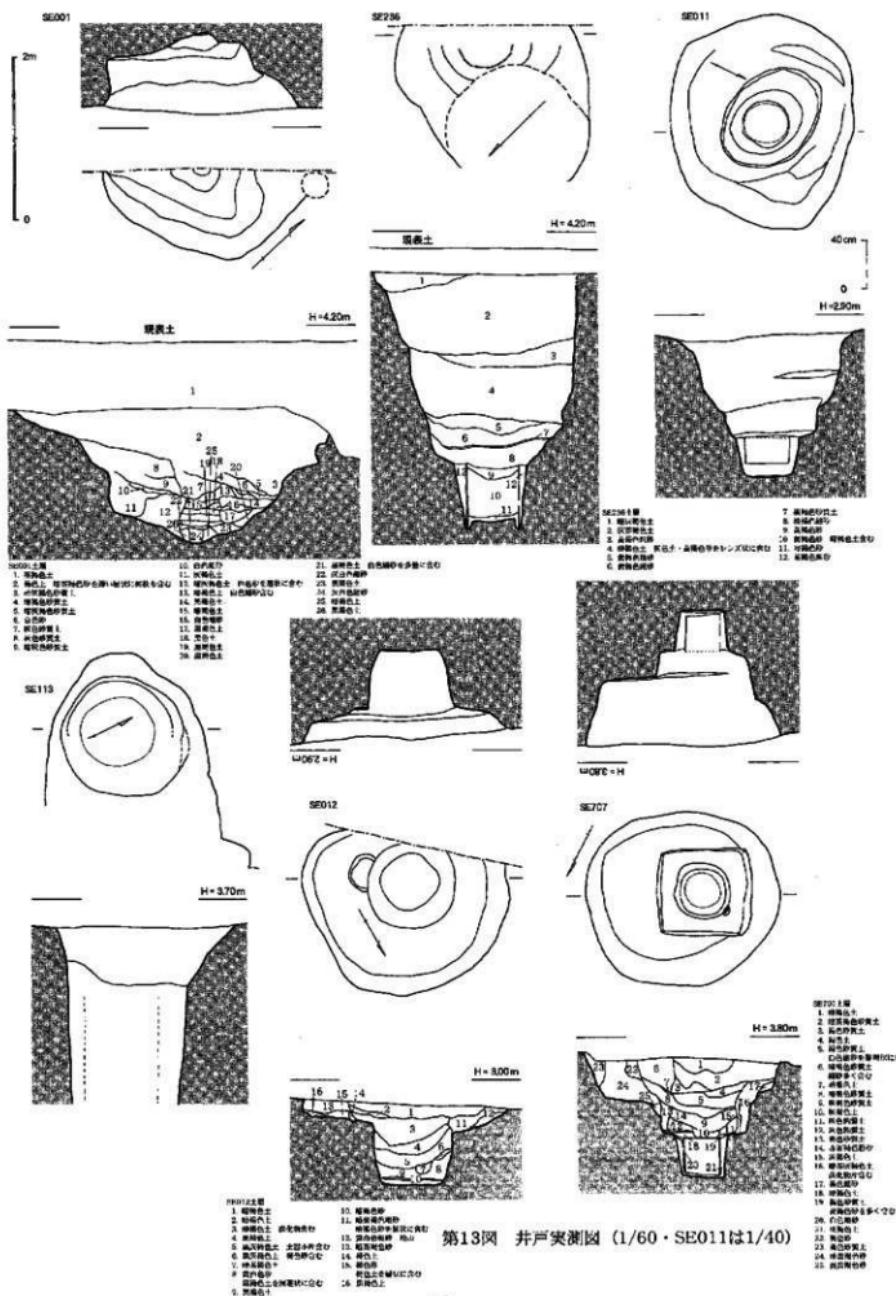
SK753 (第10図) II区2面西側に位置する。須恵器片と裏返った坏蓋が重なって出土した。

SK770 (第10図) II区2面中央に位置する。楕円形で径1.4m、深さ35cmを測る。須恵器小片が出土。

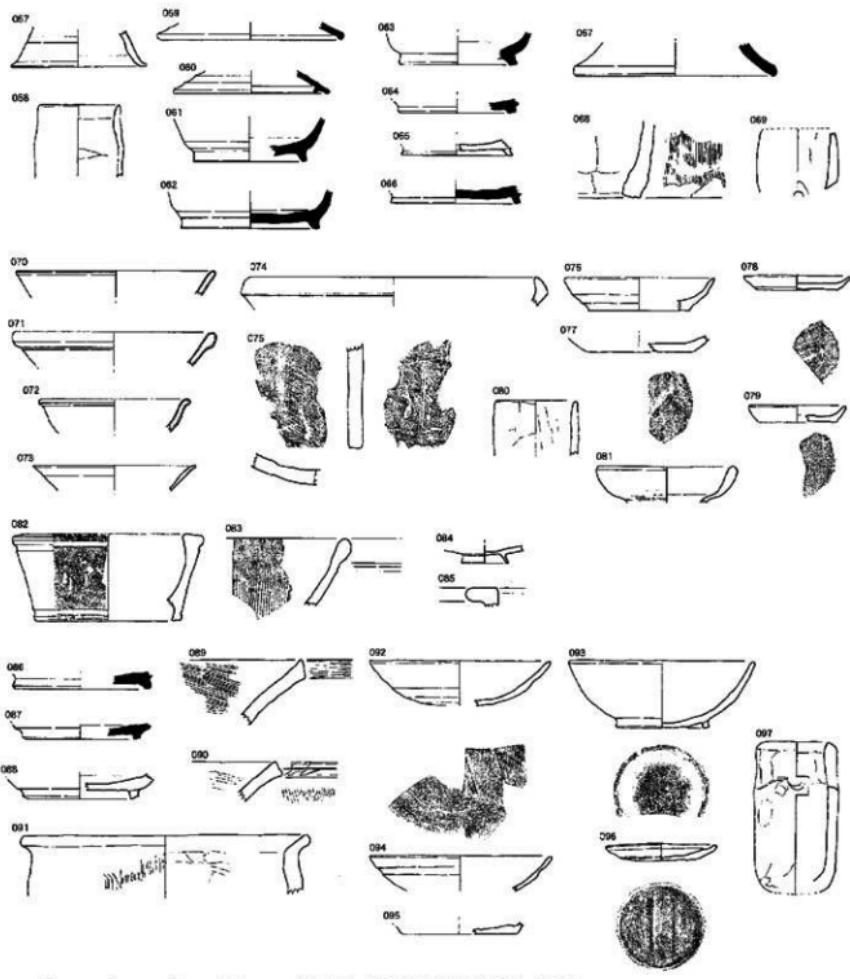
#### 4. 古代末から中世の遺構と遺物

1) 井戸 (遺構第13図 遺物第14図) 古代から中世の井戸6基を検出した。

SE001 調査区北端で検出した。井筒部分は調査区外である。出土遺物 (057～069)。



第13図 井戸案測図 (1/60・SEO11は1/40)



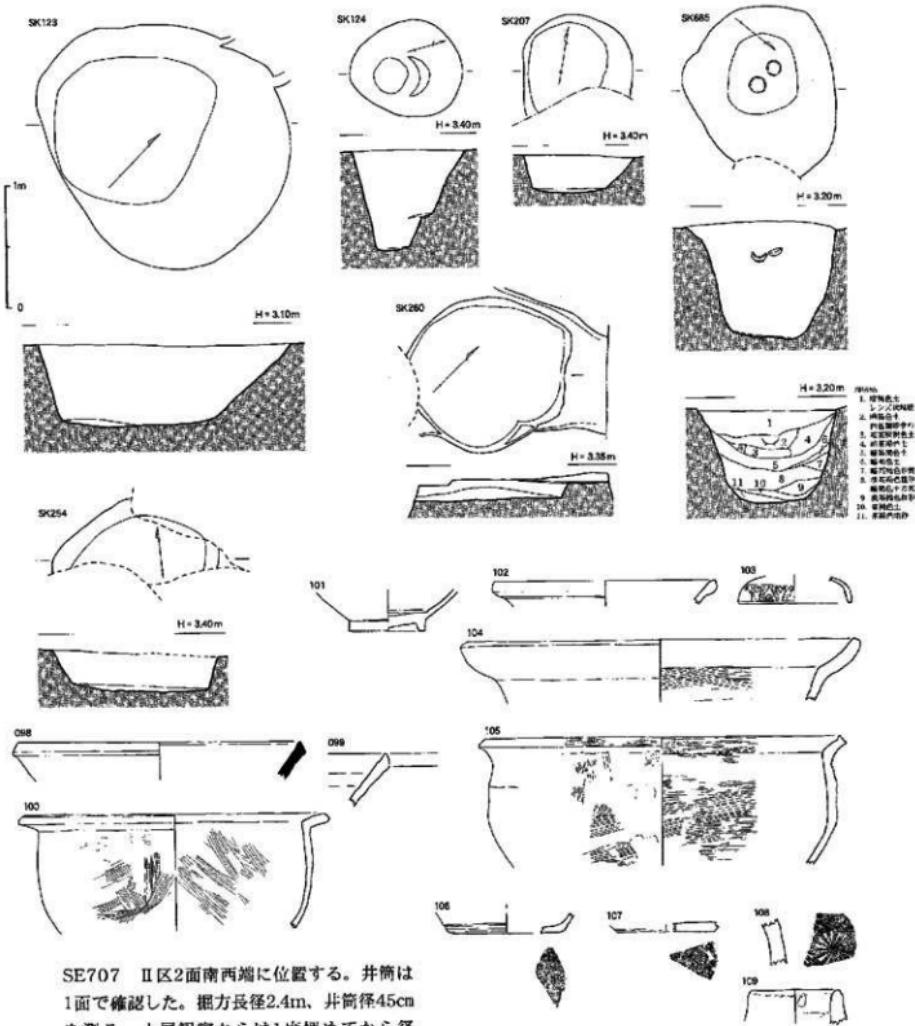
第14図 井戸出土遺物実測図 (1/4)

SE011 I区中央西寄りに位置する。平面不整円形で長径1.77m、深さ1.2mを測る。底面から10cmほど浮いて曲物の痕跡を確認した。曲物は径37cm、遺存高21cmを測る。土師器碗が出土した。

SE012 I区中央に位置する。径2.6m、深さ1.1mを測る。井筒は残っていない。井筒掘り方径は1.8mを測る。井筒掘り方の周囲に広いテラスがあるが一度埋めた跡井筒を掘り込んでおり別の構造の可能性もある。出土遺物(070～081)。075は縄目压痕の瓦片。074は東播系の鉢である。12C後半か。

SE113 II区1面南東部に位置する。掘方径1.8cm、井筒径90cmを測る。上部から井筒の痕跡は確認できたが湧水点まで掘り下げるても井筒木質は残ってなかった。中世の上器が多いが近世の可能性がある瓦などが数点出土している。

SE236 SE113に切られる。掘方径2.3m、井筒径63cmを測る。出土遺物(082～085)。



SE707 II区2面南西端に位置する。井筒は1面で確認した。掘方長径2.4m、井筒径45cmを測る。上層観察からは1度埋めてから径1.8mの掘方で掘り直しているのが判る。別の遺構とも思えるが西側の立ち上がりがちようど重なっており同一遺構の可能性がある。

出土遺物(086~097)。

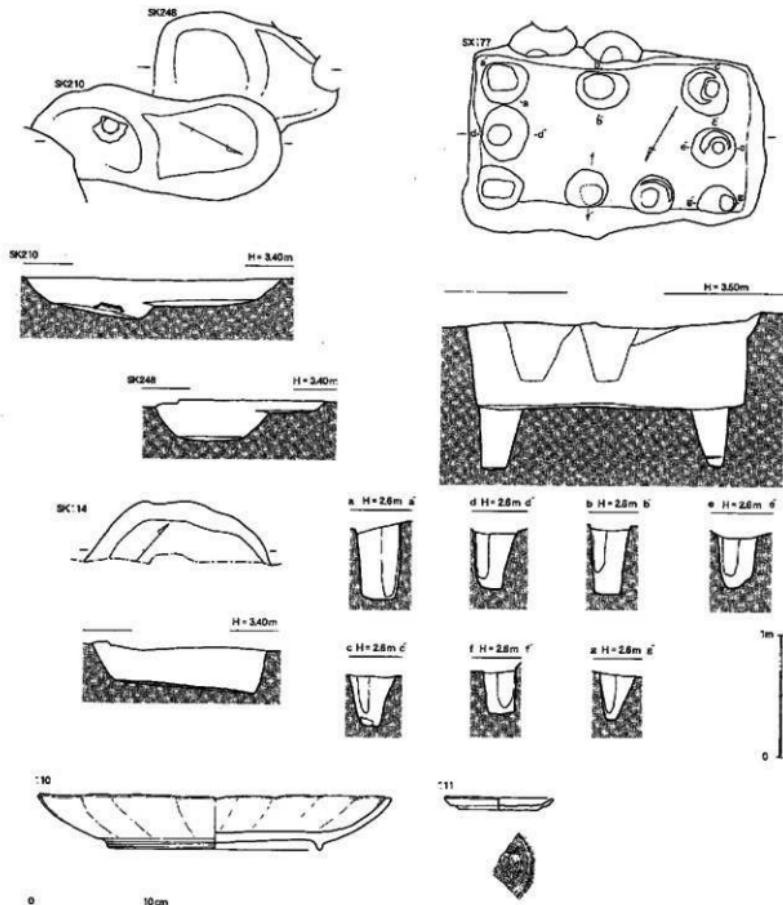
## 2) 土坑

SK123(第15図) II区1面北側に位置する。

長径2.16m、深さ68cmを測る。出土遺物(098~100)。098・099は鉢である。

SK124(第15図) II区1面北端に位置する。径92cm、深さ82cmを測る。出土遺物(101~109)。

第15図 古代から中世遺構・遺物実測図(1/40・1/4)



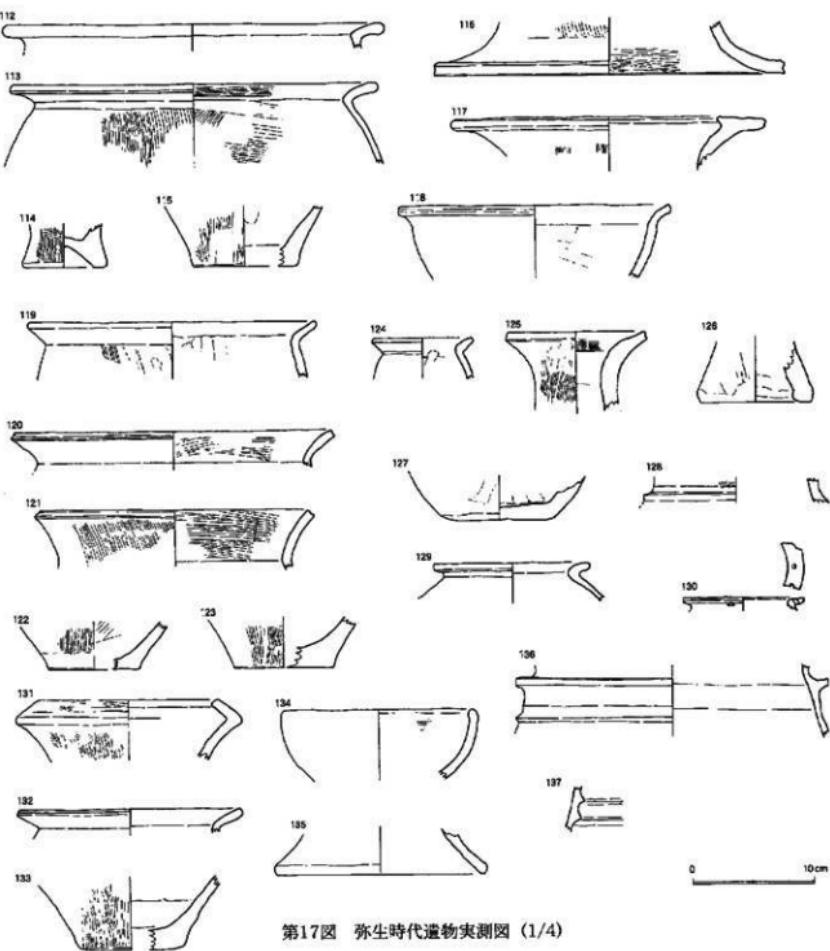
第16図 中世から近代遺構・遺物実測図 (1/40・1/4)

SK207 (第15図) II区1面南端に位置し深さ31cmを測る。白磁小片、褐釉陶器が出土。古代末か。  
 SK254 (第15図) II区1面南端に位置し深さ35cmを測る。土師皿などが出土した。古代末～中世。  
 SK260 (第15図) II区1面南端に位置する。深さ17cmを測る。土師皿が出土した。古代末～中世か。  
 SK685 (第15図) II区2面北端に位置する。楕円形で長径1.43m、深さ97cmを測る。上層で土師桶と土師壺が並んで出土。その他に土錘や7～8世紀の須恵器壺、6世紀の須恵器壺、弥生土器が出土。

##### 5. 近世から近代の遺構と遺物

SK114 (第16図) II区1面南端に位置する土坑でSK210を切る。近世から近代の磁器が出土した。  
 SK210 (第16図) 長径約2m、深さ32cmを測る土坑で肥前系磁器の染め付け皿が出土した。近世か。  
 SX177 (第16図) II区1面東隅に位置する。長方形を呈し深さ80cmを測る。底面に2間×2間の柱穴を確認した。柱径は15cm前後である。頑丈な造りで防空壕や地下倉庫などの可能性がある。近代。

6. その他の遺物 弥生時代から古墳時代の遺構数は少ないので遺物が後世の遺構から多量に出土するため、多くの遺構があったと思われる。17図以降は後世の遺構から出土した遺物である。出土遺構に



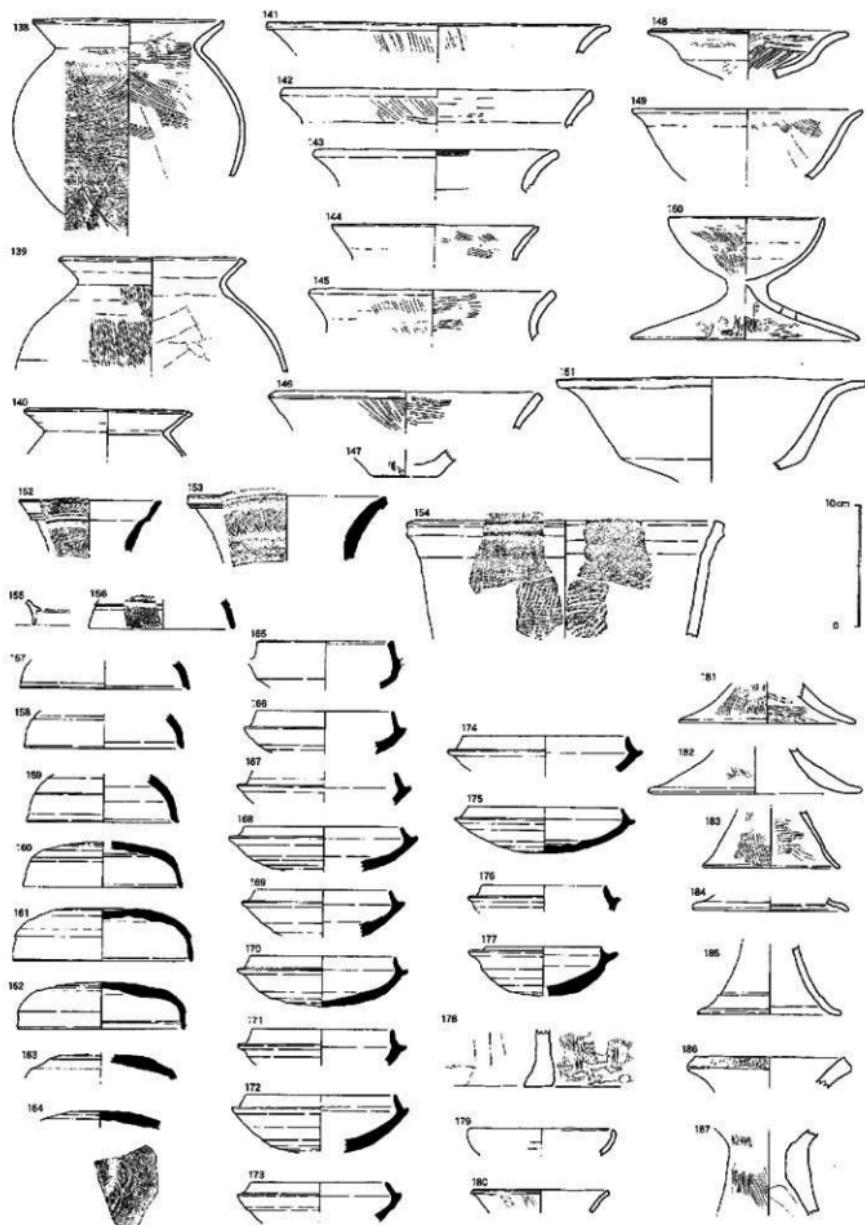
第17図 弥生時代遺物実測図 (1/4)

については土器観察表に記載する。動物遺存体は近世の土坑から魚骨がまとまって出土したか、未整理である。SE707の古代井戸からヘラ切りの上師皿と近いレベルで馬の切歯が1点出土した。

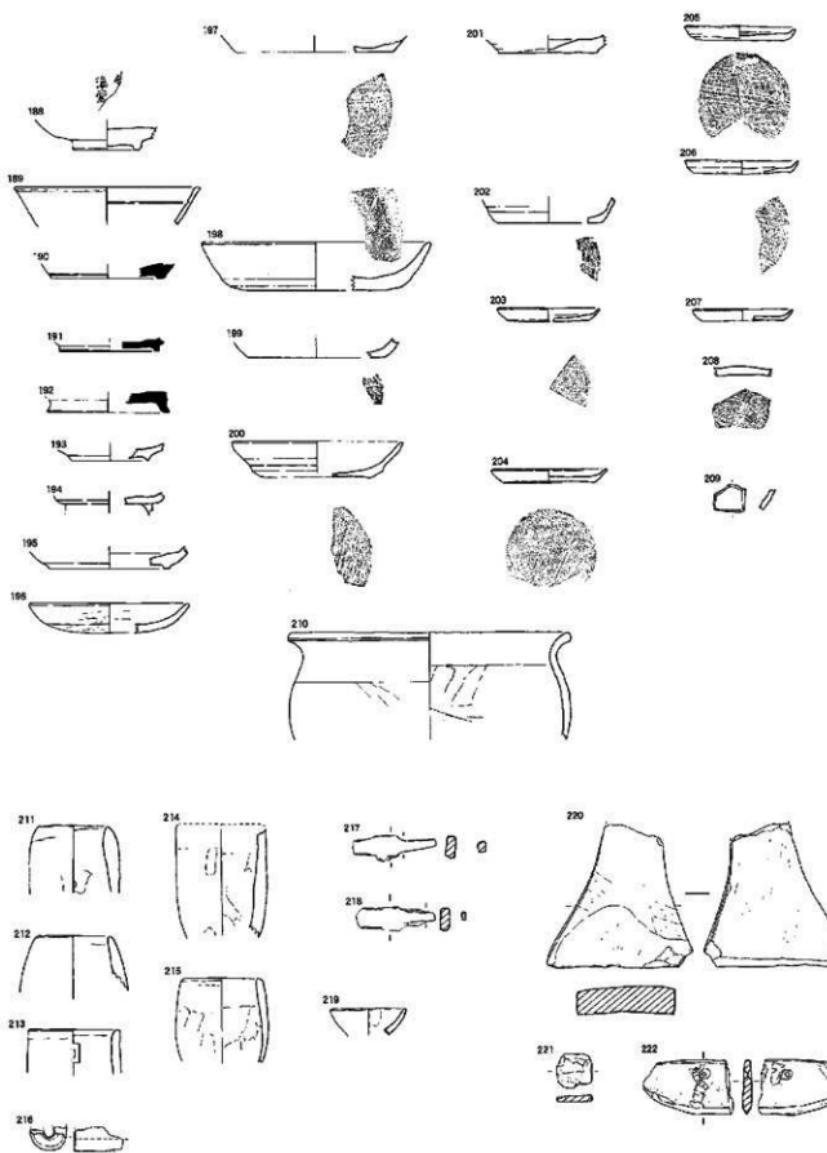
玉類 滑石製平玉とガラス製小玉が6世紀代の遺構を中心に出土した。表を裏見返しに記載。

### 3 小 結

遺構の中心が古代から中世に属するのは西側に隣接する博多遺跡とほぼ同じであるが、貿易陶磁が極端に少ないなど遺跡の性格が異なるものと思われる。SD027はその中世の溝であるが溝の東西で東側の遺構密度が濃いことから、SD027は区画溝で、溝の東側が内側の可能性がある。また、東西で砂丘面の高さが異なるのは西側を削るなど造成を行っている可能性もあるのではないか。周辺地域の調査が進むことが期待される。



第18図 古墳時代遺物実測図 (1/4)



0 5 10 15 cm

第19図 中世及びその他の遺物実測図 (1/4)

表 1. 土器觀察表







1. I 区 2面 全景 (南東から)



2. II 区 1面 全景 (北西から)

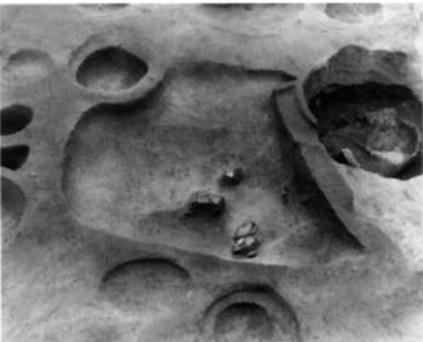
図版 2



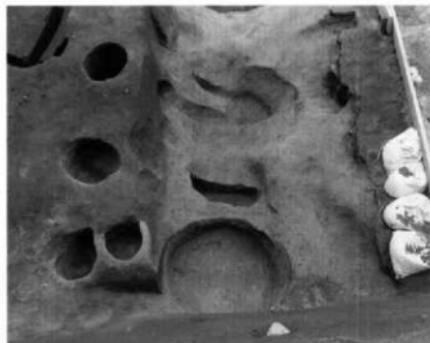
1. II区2面 全景（北西から）



2. 調査区土層



3. SK066（北東から）



1. SK 271 (北東から)



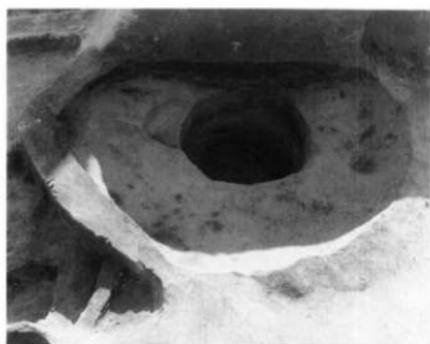
2. SC 067 (東から)



3. SC 018 (南東から)



4. SE 707 (北西から)



5. SE 012 (北東から)



6. SE 113 (南東から)

図版 4



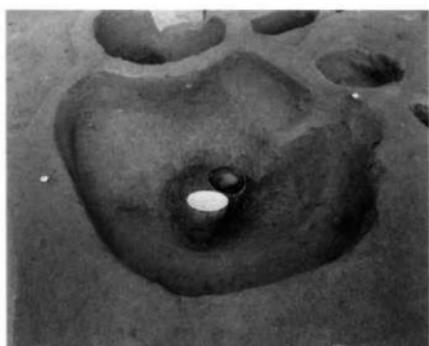
1. SD 027 (北東から)



2. SK 753 (北から)



3. SK 123 (北西から)



4. SK 685 (西から)



5. SK 210 (南から)



6. SK 177 (北東から)

表2. 出土玉類一覧

遺物番号	外径(mm)	孔径(mm)	高さ(mm)	重さ	材質	色	形	出土遺構	時期
223	4.6	1.0	3.6	0.11g	ガラス玉	水色	小玉	017	古代
224	6.6	1.9	2.4	0.19g	滑石		平玉	149	不明
225	6.4	1.8	2.2~2.7	0.18g	滑石		平玉	149	不明
226	6.5	1.9	3.9~4.6	0.32g	滑石		平玉	614	6世紀中
227				0.06g	滑石		剥片	614	6世紀中
228	7.9	2.0	2.2~3.1	0.32g	滑石		平長	614	6世紀中
229	4.3	1.2	1.7	0.05g	滑石		平玉	614	6世紀中
230	6.9	2.6	4.8	0.39g	滑石		平玉	675	6世紀末
231	6.5	1.8	2.3~3.4	0.23g	滑石		平玉	675	6世紀末
232	7.0	1.2	6.0	1.23g	ガラス玉	紺	小玉	751	6世紀
233	5.9	1.6	3.4~3.7	0.25g	滑石		平玉	751	6世紀
234	7.0	1.8	1.9~2.5	0.19g	滑石		平玉	不明	不明
235	5.7	1.9	1.8	0.05g	滑石	1/2欠損	平玉	不明	不明

書名	吉塚9
副書名	吉塚遺跡群第11次調査報告
卷次	9
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	966集
編集著者	屋山洋 編集機関 福岡市教育委員会 発行機関 福岡市教育委員会
発行年月日	2007年3月30日 郵便番号 810-8621
住所	福岡市中央区天神1丁目8番1号 電話番号 092-711-4667
所収遺跡名	吉塚遺跡群第11次 所在地 福岡県福岡市博多区堅粕1丁目427-2、425-2他
コード	市町村 40131 遺跡番号 020123
北緯	33° 35' 41" 東経 130° 25' 22"
調査期間	2005.1.007~2005.1.209 調査面積 277m <sup>2</sup>
調査原因	共同住宅の建設 種別 集落 主な時代 弥生時代~中世
主な遺構と遺物	弥生時代中期(土坑-土器) 弥生時代後期後半(竪穴式住居-土器、土坑-土器、古墳時代前期(土坑-土師器-滑石製玉) 古墳時代後期(土坑-須恵器-土師器-土錐-飯蛸壺-刀子) 古代~中世(井戸-土師皿-白磁碗-土師壺-土師椀-須恵器高台付壺-すり鉢-瓦器碗-飯蛸壺、土坑-土器-白磁碗-青磁碗-白磁合子-土鍋-瓦器-飯蛸壺) 近現代(防空壕 土坑)

## 吉塚9

—吉塚遺跡群第11次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第966集

2007年(平成19年)3月30日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目18-1

印刷 有限会社吉村綜合印刷

福岡市博多区博多駅前2-3-23



